
F D 活動報告書

(2016 年度)

鹿児島女子短期大学



— 目 次 —

1. 学生による授業評価 … 1
2. 授業公開 … 9
3. F D 研修会 … 14
4. 外部 F D 研修会参加 … 23

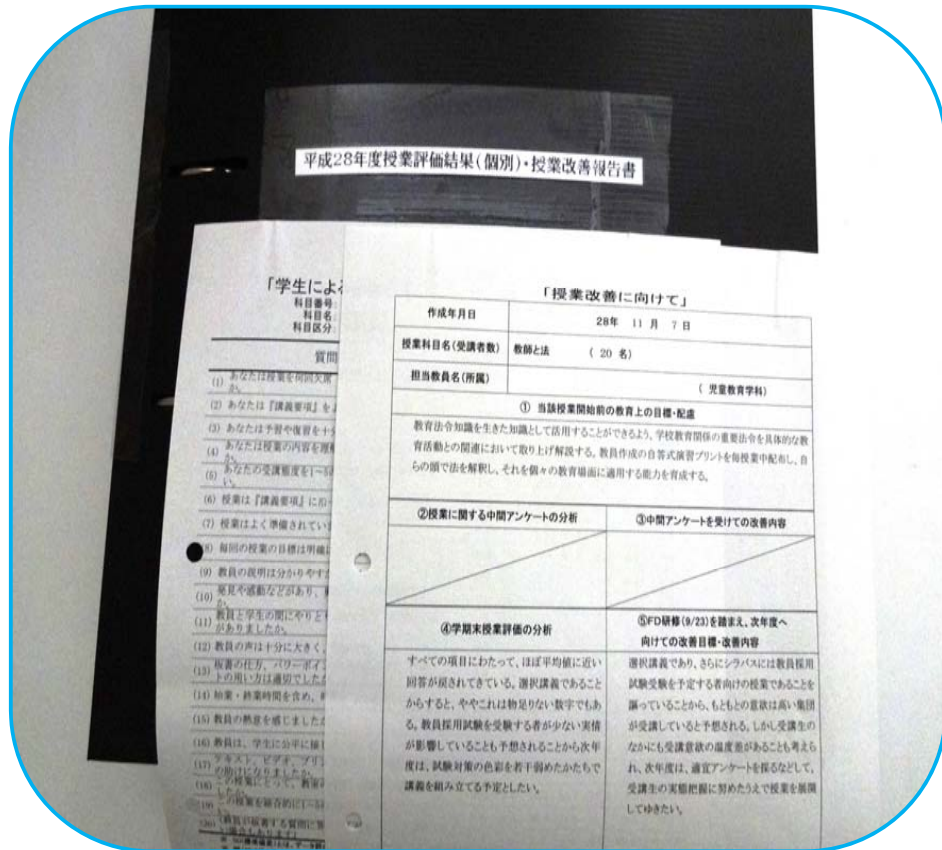
1 学生による授業評価

<授業評価アンケート実施内容>

(単位:名)

年度	学期	専任教員数	実施教員数(専任)	非常勤教員数	実施教員数(非常勤)	授業改善書提出教員数(専任)	授業改善書提出教員数(非常勤)
平成28年度	前期	47	46 (97.9%)	41	18 (43.9%)	46 (100%)	13 (72.2%)
	後期	47	47 (100%)	55	25 (45.5%)	46 (97.9%)	18 (72.0%)

(前期1名:休職/後期1名:2017年3月退職)



◆授業評価依頼文書① (例示:平成28年度後期:授業アンケート依頼)

「授業についてのアンケート調査」実施要領 (平成28年度後期)

IR委員会

1. アンケート実施期間

下記の期間に「授業についてのアンケート調査」を実施してください。

平成29年1月6日(金)～1月26日(木)

2. アンケート実施予定票の提出

アンケート科目は、後期開講科目のうちの1科目(全授業)です。実技・演習科目も対象科目としていただいて結構です。

アンケート実施予定日の前日までに、下欄の予定票に記入し、切り取ってIR委員会のレターケースに提出してください。(アンケート実施予定票はサイボウズからもダウンロードできます。)

3. アンケート実施手順

- ①授業前に、アンケート用紙(「授業についてのアンケート調査」)の入った封筒を事務室で受け取ってください。(封筒に科目コードが書かれています。)
- ②アンケート用紙を学生に配付後、黒板に科目コードと自由設定項目20を書いてください(追加質問がない場合は不要です。)
- ③15分程度の時間を回答に充ててください。
- ④学生の代表に、アンケート用紙の回収にあたるせてください。重ねる順番は自由ですが、用紙の向きが合っていることを確認させてください。
- ⑤学生の代表に、所定の封筒に回収したアンケート用紙を入れさせてください。
- ⑥授業後、その封筒と余りのアンケート用紙を、出勤簿付近の所定のボックスに入れてください。

4. 授業改善報告書

集計結果がまとまり次第、先生方へデータをお渡しします。それに基づいて「授業改善に向けて」(授業改善報告書)を春季FD研修会(予定)受講後、同研修の内容を踏まえてご提出いただきますので、よろしくお願いたします。

切り取り線

平成28年度後期

アンケート実施予定票

氏名 _____

【実施科目】 _____

【実施授業時間】(授業が複数回ある場合はそれぞれ書いてください。)

受講者数

J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ()
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ()
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ()
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ()

平成29年2月

教員各位

F D委員長 池田

早春の息吹が感じられるようになってまいりました。

後期試験も終わり、先生方には年度末へ向けてご多忙の毎日が続いていることと拝察します。

さて、1月に実施した授業アンケートの個人別結果の仕分けが終わりましたので返戻いたします。これまでと同様、授業改善に向けた報告書用紙も同封してあります。改善報告書はすぐにご提出いただくのではなく、3月24日(金)10:30より開催される、FD研修会でのワークショップを踏まえご提出いただきますようお願いいたします(研修会にどうしても出席できない先生は、すぐのご提出でも構いません。その場所は、池田ポストをお願いします)。

提出期限は4月10日(厳守)とさせていただきます(提出先：返戻用の提出ボックスを用意(3月24日10時30分以降、出勤簿付近に設置します))。

なお、これからの主なFD活動スケジュールは下記のとおりです。

1. 第2回FD研修会 3月24日(金)10:30~

同封資料

- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果(実施全科目分)
- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果(科目または授業別)
- ・「学生による授業評価アンケート」自由記述欄(切り抜き)
- ・「授業改善に向けて」様式(サイボウズよりダウンロードできます)

以上

※「授業改善に向けて」は資料封入の透明袋へ入れてご提出ください

授業についてのアンケート調査

鹿児島女子短期大学
このアンケートは、授業改善に活用されるためのものです。各質問項目に慎重に答えてください。氏名は授業評価には関係ありません。また回答が漏れに留意してください。

(a)実施日と科目名を記入してください (b)学年をマークしてください

実施日	月	日	① 1年生
科目名			② 2年生
			③ 上記以外

(c)科目番号を記入し、マークしてください (d)学科をマークしてください (e)出席番号をマークしてください

科目番号	① 児童教育学科	(f)出席番号をマークしてください (1番~9番までの方は十の位を0にマーク)
	② 生活学科	⑩ ⑩
	③ 教養学科	⑪ ⑪
	④ 上記以外	⑫ ⑫

(g)組をマークしてください

① 1組	⑪ ⑪
② 2組	⑫ ⑫
③ 3組	⑬ ⑬
④ 4組	⑭ ⑭
⑤ 5組	⑮ ⑮
⑥ 6組	⑯ ⑯
⑦ その他	⑰ ⑰

A 次の質問について①~⑤までの5段階で最も近いと思われる数字を選び、マークしてください

(1) あなたは授業を何回欠席(欠)かれましたか。	欠席なし	1回	2回	3回	4回以上	
(2) あなたは「講義要項」をよく読みましたか。	よく読みました	1	2	3	4	5
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。	よくやりました	1	2	3	4	5
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。	よく理解できました	1	2	3	4	5
(5) あなたの受講態度を1~5の段階で評価してください。	よい	1	2	3	4	5

用紙の向きを揃えて回収
折り曲げ厳禁

アンケートの記入は、角に折ってこの中封袋に入れてください
1. 角を折らないうちに入れてください
2. 訂正する場合は消しゴムできれいに消し、同じ入を角の上に乗せてください

(6) 授業は「講義要項」に沿って行われましたか。	よく行われました	1	2	3	4	5
(7) 授業はよく準備されていたか。	よく準備されていた	1	2	3	4	5
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	よく明確になっていました	1	2	3	4	5
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。	よくわかりやすかったです	1	2	3	4	5
(10) 実習や運動などがあり、興味を持てる授業でしたか。	よく興味を持てました	1	2	3	4	5
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	よく活気がありました	1	2	3	4	5
(12) 教員の声は十分に大きく、聴き取りやすかったですか。	よく聴き取りやすかったです	1	2	3	4	5
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	よく適切でした	1	2	3	4	5
(14) 授業・授業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	よく適切でした	1	2	3	4	5
(15) 教員の態度を評価してください。	よい	1	2	3	4	5
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。	よく公平に接していました	1	2	3	4	5
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	よく助けになりました	1	2	3	4	5
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	よく適切でした	1	2	3	4	5
(19) この授業を総合的に1~5の段階で評価してください。	よい	1	2	3	4	5
(20) (教員が改善する価値があるとあります。)		1	2	3	4	5

B 以下の質問について自由に答えてください

21) この授業でよかったと思う点を書いてください 下記に記入したら、必ず右にマークしてください。特 に記入した場合は、記入したをマークしないで 下さい。	記入した ①	22) この授業でよくなかったと思う点、改善す べきだと思う点を書いてください 下記に記入したら、必ず右にマークしてください。特 に記入した場合は、記入したをマークしないで 下さい。	記入した ①	23) この授業について、授業、施設、設備も含め、 不満・要望・その他があれば書いてください 下記に記入したら、必ず右にマークしてください。特 に記入した場合は、記入したをマークしないで 下さい。	記入した ①

「授業改善に向けて」

作成年月日	年 月 日
授業科目名(受講者数)	(名)
担当教員名(所属)	()
①当該授業開始前の教育上の目標・配慮	
②授業に関する中間アンケートの分析	③中間アンケートを受けての改善内容
④学期末授業評価の分析	⑤FD研修(3/24)を踏まえ、次年度へ向けての改善目標・改善内容

※複数開講科目の場合、受講者数は授業ごとに個別に人数を記してください(例:「95+110名」)。

※②と④の分析は、学生による授業評価を総合的に振り返ってください。学生からの質問の代表的なものに対して、具体的にお答えいただいても結構です。

平成28年9月

非常勤講師 各位

FD委員長 池田

初秋の風が気持ちよく感じられる季節となつてまいりました。と同時に、後期も開講し、先生方にはご多忙の毎日が始まったことと拝察します。さて、前期内で実施した授業アンケートの個人別結果の仕分けが終わりましたので返戻いたします。これまでと同様、授業改善に向けた報告書用紙も同封してあります。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、資料結果に基づき、同封いたしました「授業改善に向けて」にご記入のうえ、提出いただきますようお願い申し上げます。

提出期限は10月31日(必着)とさせていただきます。同封の返信用封筒にてご返送ください。

同封資料

- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果(実施全科目分)
- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果(科目または授業別)
- ・「学生による授業評価アンケート」自由記述欄(切り抜き)
- ・「授業改善に向けて」様式
- ・返信用封筒

以上

※「授業改善に向けて」は同封の返信用封筒へ入れてご提出ください

◆集計結果（平成28年度前期：全体）

平成28年度 前期実施										
「学生による授業評価アンケート」集計結果(実施全科目分)										
質問項目	各選択肢の回答率 (%)						度数	平均値	標準偏差	
	0	1	2	3	4	5				
(1) あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	58.5	24.2	10.5	5.0	1.8		5535	0.7	1.0	
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。		7.1	27.9	42.5	16.1	6.4	5528	2.9	1.0	
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。		7.3	23.8	42.8	20.1	6.0	5501	2.9	1.0	
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。		0.8	7.9	33.0	40.5	17.7	5527	3.7	0.9	
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。		0.4	2.8	32.1	47.7	17.0	5531	3.8	0.8	
(6) 授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。		0.3	2.5	30.1	36.2	30.9	5553	3.9	0.9	
(7) 授業はよく準備されていましたか。		0.2	1.7	14.4	34.4	49.3	5557	4.3	0.8	
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。		0.3	2.5	16.6	35.4	45.2	5558	4.2	0.8	
(9) 教員の説明は分かりやすかったですか。		1.1	4.8	16.3	34.2	43.6	5557	4.1	0.9	
(10) 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。		0.9	4.1	19.4	35.2	40.4	5556	4.1	0.9	
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。		0.8	4.7	21.8	32.7	39.9	5556	4.1	0.9	
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。		0.8	3.0	13.2	28.9	54.2	5554	4.3	0.9	
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。		0.6	3.3	17.8	34.9	43.4	5548	4.2	0.9	
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。		0.5	2.6	15.2	33.1	48.5	5552	4.3	0.8	
(15) 教員の熱意を感じましたか。		0.2	1.0	13.4	32.9	52.5	5555	4.4	0.8	
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。		0.2	0.9	11.2	30.0	57.8	5551	4.4	0.7	
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。		0.3	2.0	17.0	33.8	47.0	5549	4.3	0.8	
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。		0.3	1.6	15.1	33.5	49.5	5544	4.3	0.8	
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。		0.2	1.6	14.5	40.1	43.7	5546	4.3	0.8	
※ 下線は各質問項目において最も回答数が多かった選択肢です。										
※ 「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。										
※ 「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。										

◆集計結果（平成28年度後期：全体）

平成28年度 後期実施										
「学生による授業評価アンケート」集計結果(実施全科目分)										
質問項目	各選択肢の回答率 (%)						度数	平均値	標準偏差	
	0	1	2	3	4	5				
(1) あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	56.2	23.0	12.6	6.1	2.1		5257	0.7	1.0	
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。		10.1	27.8	42.7	14.5	4.9	5267	2.8	1.0	
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。		8.3	20.7	43.3	21.3	6.4	5265	3.0	1.0	
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。		1.2	6.8	34.9	40.0	17.1	5267	3.7	0.9	
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。		0.3	2.9	32.8	47.0	17.0	5264	3.8	0.8	
(6) 授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。		0.4	2.9	29.7	35.7	31.2	5284	3.9	0.9	
(7) 授業はよく準備されていましたか。		0.4	1.5	15.3	35.5	47.3	5284	4.3	0.8	
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。		0.4	2.4	16.5	34.8	45.9	5284	4.2	0.8	
(9) 教員の説明は分かりやすかったですか。		1.5	4.3	16.3	35.4	42.6	5283	4.1	0.9	
(10) 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。		1.2	4.0	19.8	36.8	38.2	5286	4.1	0.9	
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。		1.3	5.3	21.4	34.8	37.2	5285	4.0	1.0	
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。		0.9	3.1	14.3	30.5	51.1	5285	4.3	0.9	
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。		1.0	2.3	18.9	34.0	43.7	5282	4.2	0.9	
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。		0.8	2.3	14.6	32.6	49.7	5283	4.3	0.9	
(15) 教員の熱意を感じましたか。		0.6	1.3	14.9	33.1	50.2	5285	4.3	0.8	
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。		0.6	1.3	12.4	30.0	55.7	5285	4.4	0.8	
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。		0.8	2.0	17.1	33.5	46.5	5280	4.2	0.9	
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。		0.5	1.5	13.6	34.3	50.1	5283	4.3	0.8	
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。		0.5	1.7	14.8	40.4	42.7	5270	4.2	0.8	
※ 下線は各質問項目において最も回答数が多かった選択肢です。										
※ 「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。										
※ 「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。										

2 授業公開

<授業公開週間実施内容>

(単位：名)

年度	実施期間	参 観 科目数	専 任 教員数	授業参観記録 提出教員数	備考 (教員内訳)
平成 28 年度	平成 28 年 11 月 7 日 (月) ~25 日 (金)	2 1	4 7	2 7 (専任 25 名) (非常勤 2)	児童教育：5/21 名 生活：12/18 名 教養：8/9 名 非常勤：2 名

◆授業公開週間について①（平成 28 年度）

平成 28 年 10 月 31 日

教員各位

FD委員長 池 田

お知らせとお願い

歳末というにはまだ早いものの、何かと気忙しい時節となってまいりました。

さて、下記の予定で授業公開週間が始まります。授業力向上のため、自らの授業にたいする他者評価は重要な資料ともなりますので、公開へのご理解、ご協力のほどをよろしくお願ひ申し上げます。つきましては、教員メールボックス脇に用意した「後期時間割」に、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ（×）印をつけていただきますようお願いいたします（一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします）。

なお授業参観の際は、原則として、事前に授業担当者へ参観希望である旨をお伝えください（実習にその他による休講等があるため）。また参観は、授業開始時から終了時までとしますが、場合によっては中途参観・退出でも構いません。

参観後は、添付の参観感想用紙を 11 月末日までに指定の提出ボックスへお入れください。

記

平成 27 年度後期授業公開週間 11 月 7 日 (月) ~ 11 月 25 日 (金)

以 上

◆授業公開週間について②（平成 28 年度：非常勤講師）

平成 28 年 10 月 31 日

非常勤講師 各位

FD委員長 池 田

お知らせとお願い

歳末というにはまだ早いものの、何かと気忙しい時節となってまいりました。

さて、下記の予定で授業公開週間が始まります。授業力向上のため、自らの授業にたいする他者評価は重要な資料ともなりますので、公開へのご理解、ご協力のほどをよろしくお願ひ申し上げます。つきましては、教務課窓口「後期時間割」を用意しました。出勤簿押印時に確認し、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ（×）印をつけていただきますようお願いいたします（一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします）。

なお授業参観の際は、事前の講義実施予定の確認をお勧めします。（実習にその他による休講等があるため）。また参観は、授業開始時から終了時までとしますが、場合によっては中途参観・退出でも構いません。

参観後は、添付の参観感想用紙を 11 月末日までに教務課へお渡しく下さい。

記

平成 28 年度後期授業公開週間 11 月 7 日 (月) ~ 11 月 25 日 (金)

- 概 要：①上記の期間中に授業の参観ができます。90分間に複数の授業を参観していただいても構いません。
②期間中は、「授業公開週間時間割」（時間割は教務課でご確認下さい。）に条件が明示されていない限り、授業担当者の許可なく入退室できます。

- 参 観 後：①参観者は、「授業参観記録」に感想等を記入し、教務課へ提出して下さい。
②記録用紙は1授業につき1枚の記入となります。
③教務課で記録用紙を回収した後、科目毎にまとめ、授業担当者へお渡しします。（ただし、コピーを1部、FD委員会にて保管します。）

以 上

◆授業公開について（時間割確認のお知らせ）（平成28年度）

授業公開週間時間割

授業公開週間(11/7～11/25)の時間割を準備いたしました。

※ 10/31 までに、わかっている休講・教室変更については記載しています。

各学科の時間割について、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ(X)印をつけていただきますようお願いいたします(一般教養科目等の同時開講科目は、お名前部分に印をお願いします。)

*** 非常勤講師の皆様も、授業公開にご協力いただいております。
できるだけ、参観にもご協力いただきますようお願いいたします。***

10月31日 FD委員会

◆授業公開について（公開週間お知らせ：学生用）（平成28年度）

2016.10.31

授業公開週間のお知らせ

FD委員会

本学における授業改善の一環として、「授業公開週間」を実施します。
これは、教員間で授業を参観し合うことにより、各教員が自分の授業を見直して質の向上を図ることを目的としています。期間中は、学生の皆さんが受けている授業を、本学教職員または非常勤講師の先生方が参観されることがありますので、その際は理解と協力をお願いします。

実施期間：11月7日(月)～25日(金)

以上

◆授業公開時間割例示（平成28年度）

鹿児島女子短期大学
平成28年10月31日現在

平成28年度【後期】授業公開週間時間割 [児童教育学科]													
曜	年	1 年						2 年					
		1組	2組	3組	4組	5組	6組	1組	2組	3組	4組	5組	6組
	組	小幼保		幼・保				小幼保		幼・保			
	コース	コース		コース				コース		コース			
	名	32名	31名	42名	42名	41名	41名	61名	29名	42名	42名	40名	41名
	1		(保)表現Ⅰ 松下 610	保育内容(環境) 横峯 401			子ども保健Ⅱ 宇都 (今村) 511	前半)カパシク入門 松元 東201	保育・教職 実習演習404	(保)表現Ⅲ 中村 605			
11月7日	2												
	3	生徒指導・進路指導 松元 406		発達心理学Ⅱ 平嶋 南304	音楽Ⅱ 新村 605					国語 瀬戸口 西204	算数 内田 401	生 澤 松崎 405	
	4												
	5	(保)表現Ⅰ 松下 610	音楽Ⅱ 新村 605	障害児の教育・保育 丸田 401	音楽Ⅱ 新村 605			生進学習論 山元 403 社会 松崎 東201 理科 横峯 西203	(保)人間関係 坪井 407	(保)表現Ⅲ 武田		体育実技 大村 体育館	
	6												
	7	英語演習ⅡA 生田 405		英語演習ⅡB 吉村 MM				(保)表現Ⅲ 中村 605				(保)人間関係 坪井 東201	保育・教職 実習演習306
	8	英語演習ⅡC(高島) 309		ドイツ語演習Ⅱ 武田 608									村野 山元 平崎
	9	中国語演習Ⅱ(谷口)西204		韓国語演習Ⅱ(金) 404									
	10			保育所実習Ⅰ指導 宇都・丸田 701									
11月8日	1	教育原理 山元 401	体育Ⅱ 小松・黒原 体育館	保育者論 丸田 402	保育臨床 宮里 405	(保)人間関係 坪井 407		(保)人間関係 松元 東201				(保)表現Ⅲ 中村 605	
	2												
	3	保育者論 丸田 東201		保育内容(環境) 横峯 401								(保)表現Ⅲ 中村 605	
	4												
	5	障害児の教育・保育 宮里 401	保育者論 丸田 405	発達心理学Ⅱ 平嶋 南304	情報メディアの活用 瀬戸 南501	体育実技 黒原 体育館※		体育実技 保・教実務 演習406		相談援助 赤瀬川 東201		(保)人間関係 坪井 407	
	6	倫理学 村若 405	数学基礎 内田 401	国際化と経済 大重 404								相談援助 赤瀬川	
	7	心理学 園田 404											

◆授業公開参観記録様式（平成28年度）

平成28年度 授業参観記録

科目名	担当者	先生
参観日時	11月 日() 1-2 3-4 5-6 7-8 9-10 曜日	
記入者	児童教育学科 生活科学科 教養学科	
	非常勤講師 事務職員 その他()	
氏名		
授業についての感想		

※11月30日(水)までに提出ボックスにご提出ください。

◆授業公開実施報告（平成28年度）

平成28年度 授業公開週間について（報告）

FD委員会

○実施期間：平成28年11月7日（月）～11月25日（金）

○報告書提出者数

学 科	人 数 (昨年度数)
児童教育学科	5 (7)
生活科学科	12 (13)
教養学科	8 (4)
非 常 勤	2 (0)
合 計	27 (24)

○参加科目一覧

教職実践演習	社会福祉論	発達心理学	保育者論
We Love 鹿児島!	臨床心理学	栄養生化学Ⅱ	現代社会学
障害児の教育・保育	疾患看護学	情報処理論	食品学各論
ビジネス英語	理科基礎	コミュニケーション演習	病理学
ライフデザイン論Ⅱ	倫理学	企業実務演習	韓国語
解剖学Ⅱ			

- ・規則化する動詞・形容詞の復習をしてから不規則変化へと移る内容であったが、練習量もそれにかかる時間もきちんと確保されており、丁寧な指導だと感じた。学生の取り組みも良かった。
- ・全体的に授業構成がよく検討されており、わかりやすく学生からも共感を持って授業参加している姿がうかがえた。
- ・学生に考えさせながら進行する授業構成になっていた。一度解答となるものを推測させてから、取り組み、解説するやり方は参考させてもらおうと思う。教材準備はとても大変だったと推測する。学生に対し、一方的にならない授業にするためのヒントをもらった。
- ・教壇の前だけでなく、教室全体を回りながら講義しており、学生が緊張感を持って話を聞いていた。授業用のスライドと配布プリントが非常にうまく整理されていた。
- ・先生の熱意が伝わってくる授業だった。「その人がどう生きてきたか」は本学学生の進路において考えなければいけない課題だと感じた。
- ・実践経験にもとづいた説得力のある事例は、大変説得力があった。学生のおかれる立場をしっかりと踏まえた上で、具体的な内容に富んでおり、あとは受講した側がどれだけ実践するかにかかっていると思う。
- ・難しい内容を丁寧にわかりやすく説明されていた。難解なものを優しく説明できる見識の深さを感じた。
- ・他の授業で取り入れたものと、見せていただいた授業と合致して、学生が学修したことをしっかりとつなげているという発見があった。
- ・映画による「聞き取り練習」が非常に参考になった。効果的なグループワークも見られ、教員が説明する際、英語を少しずつ説明の中にも入れ込んでいけば、さらに良い授業になると思う。
- ・授業の構成、やり方等、自分の授業にとっても近い感じがした。学生数やその他の条件等を考慮していくと、同じような所におちつくだなあという印象を受けた。
- ・遊びのパリエーションと発想が豊かで、その中で学生の気づきも見られ、学生が講義中に「なるほど」という「!!」があり、学生自身の発想の転換にもなっていた。
- ・いわゆる板書をせず、学生と対話しながら授業を進めているのが印象的であった。先生の問いかけに対し、学生はしっかりリアクションを取っていて、参加していて楽しい授業だと思った。
- ・私もこんな授業を受けたかったと思い、学生がうらやましくなった。発問に対する挙手や発表もあり、授業者と学生とのやりとりが良かった。事前に調べ学習もしっかりできていた。

3 FD研修会

<FD研修会内容>

平成28年度	<p>・平成28年度第1回FD研修会 テーマ：「教育の研究」 平成28年9月23日（金）16:30～17:30（南館304号室） （講師：児童教育学科 講師 内田豊海） 本学参加者：40名</p>
	<p>・平成28年度第2回FD研修会「第22回FDフォーラム報告」 （京都：京都コンサートホール・京都府立大学下鴨キャンパス） テーマ：「大学の教育力を発信する～教養教育改革と現代社会～」 平成29年3月24日（金）10:30～11:30（南館304号室） （講師：児童教育学科 講師 内田豊海） 本学参加者：52名</p>
	<p>・ICT「マルチメディア機器」説明・研修会（南館401号室：MM教室） 平成28年4月4日（月）17:30～ （講師：チエル株式会社）</p>

◆平成28年9月23日（金）「2016年度第1回FD研修会」



教育の研究
2016年度第1回FD研修会

内田豊海

2016年9月23日





◆2016 年度第 1 回 F D 研修会 掲 示 (内 容)

平成 28 年 9 月 5 日

教員各位

FD 委員長 池 田

お 知 ら せ

下記の要領で、平成 28 年度第 1 回 FD 研修会を開催します。先生方のご参加をお願いします。

記

1. 日 時 9 月 23 日 (金) 16 : 30 ~ ※ 約 1 時間
 2. 場 所 南館 304
 3. 内 容 1) 開会の辞 (FD 委員長)
 2) 学長挨拶
 3) FD ワークショップ (予定) ※ 担当 : 内田講師
 4) 閉会の辞 (事務局次長兼総務課長)
 5) 事務連絡

◆2016 年度第 1 回 F D 研修会 次 第

平成 28 年 9 月 23 日

教職員各位

FD 委員長 池田

平成 28 年度 第 1 回 FD 研修会

【内容】

1. 開会の辞 (FD 委員長)
2. 学長挨拶
3. FD ワークショップ (内田講師)
4. 閉会の辞 (事務局次長兼総務課長)
5. 事務連絡

会場 南館 304

◆2016 年度第 1 回 F D 研修会 アンケート 用 紙

2016/9/23

平成 28 年度第 1 回 FD 研修会 アンケート

①本日の研修会について、ご感想・ご意見等ありましたらお書きください。

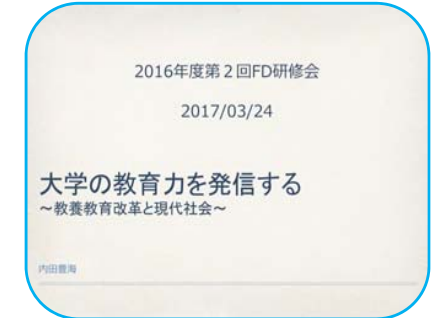
平成28年度第1回FD研修会

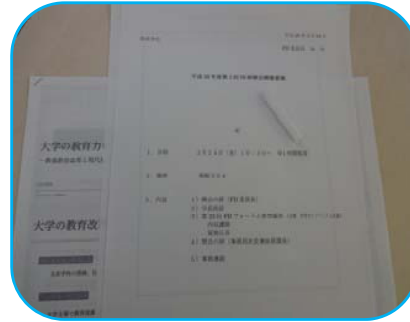
【概要】

教員養成系の再課程認定が迫られる中、「教育を研究しよう」というタイトルのもと、教員が自らの教育実践を客観的に評価できるよう、これまで教育学で培われて来た「教育観」「教育評価」「教育実践」などを広く紹介し、その上でいくつかの教育研究事例を提示した。教育の研究は、教育の質向上に直接寄与するものであり、教育学とは専門性を異にしている、自らの専門科目を講義する際、一つの視座となる情報を提供した。

【アンケート結果】

- ・これまで教育論文を執筆する際に、足りたものがどこにあったのか気づくことができ、今後の参考になった。
- ・短大の中においてグループ分けされる学生の背景にも様々な家庭的事情や価値観があることがわかり、今後の学生指導の参考となった。
- ・教育学が、大学教育においても実践できる知であることを知った。より深く学びたいと思う。





◆2016年度第2回FD研修会揭示(内容)

平成29年3月9日

教員各位

FD委員長 池田

お知らせ

下記の要領で、平成28年度第2回FD研修会を開催します。先生方のご参加をお願いします。

記

1. 日時 3月24日(金) 10:30～ ※45分～1時間程度
 2. 場所 南館304
 3. 内容 1) 開会の辞 (FD委員長)
 2) 学長挨拶
 3) FD研修会報告 ※担当: 内田講師
 4) 閉会の辞 (事務局次長兼総務課長)
 5) 事務連絡

◆2016年度第2回FD研修会次第

平成29年3月24日

教員各位

FD委員長 池田

平成28年度第2回FD研修会開催要領

記

1. 日時 3月24日(金) 10:30～ ※1時間程度
 2. 場所 南館304
 3. 内容 1) 開会の辞 (FD委員長)
 2) 学長挨拶
 3) 第22回FDフォーラム参加報告 (主催 大学コンソーシアム京都)
 内田講師
 質疑応答
 4) 閉会の辞 (事務局次長兼総務課長)
 5) 事務連絡

◆2016年度第2回FD研修会アンケート用紙

2017/3/24

平成28年度第2回FD研修会アンケート

① 本日の研修会について、ご感想・ご意見等ありましたらお書きください。

平成28年度 第2回 FD研修会

【概要】

本学より毎年度、大学コンソーシアム京都が主催するFDフォーラムに教員を派遣し、そこでの発表のフィードバックを踏まえたFD研修会を開催している。本年度のFDフォーラムのテーマは「大学の教育力を発信する」であり、教養教育改革を主眼としていた。そこで本学における教養教育のあり方を再検討する機会として、これまでの教養教育の歴史と今後の展望、そして専門教育との連続性を考えながら、大学がどのような学生を育てていきたいのかを、具体的な授業なども提示しながら検討した。

【アンケート集計内容】

- ・教養教育のあり方について見直しが進んでいる様子を知ることができてよかった。
- ・教養教育の担い手として、「自由を実質化すること」に配慮した授業をしていきたいと思った。本学の教養教育もそのような趣旨で構築していけたらいい。
- ・自身の授業でも、学生に考えてもらえるような工夫を取り入れたい。
- ・ロウソクの話は面白く、物事を考えさせるための参考になった。
- ・考える力をどうやって引き出すかの一例を見ることができ、興味深い研修会だった。
- ・大学における教養教育の定義を刷新することが必要なこと、そしてそれにより大学を差別化できるということが印象的であった。
- ・教育の可視化は大切だが、どの程度、何のために誰に対して、を具体的に示すことが必要だと思った。
- ・教養教育と専門教育を連携し、学生に考える力、実践力を身につける指導ができるよう努力したい。
- ・以前は教養部があり、それなりの期間教養教育を受けていて、面白かったことを思い出した。その期間、いろんなことを考えることができたと思う。
- ・学生たちが教養科目に興味・関心を持って意欲的に学べるよう履修指導をしていきたい。
- ・教養教育の改革が必要となっているが、学修効果の評価はどのようにあるべきか、評価法についての説明があればさらに有用であった。
- ・「同じ内容でも教え方によって学生の習得される能力が異なる」との内容が印象に残った。改めてこの点を念頭に抑えながら、自身の授業評価結果を分析してみたいと考えている。
- ・授業にも発見や感動が求められるとなると教員のアイデアや頭の柔らかさが求められる大変だと思った
- ・長崎大学のモジュールは面白いがそれにより限定的な知識しか習得できず自由度が制限される恐れもあり、私たちに必要なことは何かを考えるきっかけとなった。
- ・非常勤講師が担う一般教養科目もあり、その先生方にもいかに本学が求める学生像を伝えていくかも検討する必要があると感じた。

平成28年4月4日(月) 17:30~ 南401号室(MM教室)



○講義、オープンキャンパス利用風景



4 外部FD研修会参加

<参加内容>

平成28年度	・第22回FDフォーラム（主催：財団法人大学コンソーシアム京都） 平成29年3月4日（土）～3月5日（日） 於：（京都：京都コンサートホール・京都府立大学下鴨キャンパス） テーマ：「大学の教育力を発信する～教養教育改革と現代社会～」 参加者： 児童教育学科 講師 内田豊海
--------	--

◇参加報告（感想）

○（講師 内田豊海）

○大学コンソーシアム京都が主催する第22回FDフォーラムに、3月4、5日の二日間参加した。

今年度のテーマは、「大学の教育力を発信する」という内容で、特に教養教育に焦点を当てたものであった。現在、社会的に要請が高い分野への大学教育の転換が迫られ、文系不要論とも取れる方向性が打ち出されている。そのような中、大学の教育、特に教養教育はいかにあるべきかが議論された。政策誘導に向かい合いながらも、教学改革は常に個々の大学の主体的な取り組みが重要であり、そのためにどのようなことが大切なのかを深く議論された。また、ここから、全学共通の教養教育の改革姿勢を見れば、その大学の教育力が自ずと見えてくるということが確認された。

教養教育のルーツは、欧米のリベラルアーツを起源とするが、現在の大学の多様性や社会性、そして受け入れる学生の幅の広さを顧みれば、かつてのエリート教育の根底としての大学教育における教養教育とは一線を画す必要があり、そのために本学においても、まさに時代に即応するための教養教育のあり方が求められようとしている。

同様に、分科会においては、「教育の多様化の中での女子大学という選択」というテーマのもと、男女共同が謳われる中、なぜ女子大学なのか、その存在意義について、多様な議論がなされた。現在の社会における女性は、男性よりも乗り越える壁が多く、だからこそ、女子大学で学ぶべきことを考え直す必要があるという、まさに女子大学の教育力が求められるような時代になっている。

○大学の教養教育のあり方を見れば、その大学の教育力がわかる。従来通りのリベラルアーツ主体の教養教育ではなく、（教養＝大学で身につけるべき能力）との図式のもと、いかなる能力を大学で身につけさせたいのかを、各大学の教育方針のもと、議論していく必要がある。

* あとがき *

生涯学習社会の主要牽引役である大学として、教育力の絶えざる改善・向上は、ひとり学生だけでなく、広く社会にたいしてのものはや責務となっている。今日のFD活動は、大学に課せられたそれら責務に応えるための活動、と位置付けられるべきである。もとより大学、とりわけ私立大学には、人的・物的両面においてさまざまな差異があり、FD活動の内容を一律に規定することは避けなければならない。当該大学のFD活動にとって何が最優先の課題であるか、を見極める必要がある。

本学には現在、学力的に多層な学生が入学してくる。また入学後の学習への意欲といった面で、学生間の格差も少なくない。2回にわたる本年度のFD研修会は、こうした基本認識を前提として催された。

9月の研修会では、学生の学びへの意欲をいかにして高めることができるのかをテーマとし、ICT機材の活用などを通じたアクティブラーニングの実践例が紹介された。3月の研修会においては、やや高所に立ち、「教養教育」の再構築を軸とする大学教育内容の全般的な見直しに関する講話が研修担当教員よりあった。

上記のトピック的な研修会のほか、例年同様、「授業評価アンケート」の実施、「授業改善報告書」の提出および「授業公開週間」といった定型的FD活動も実施し、本学教育力の底上げを図った。

研修担当教員およびFD活動に協力いただいた教職員にあらためて感謝する次第である。

FD委員長 池田哲之

「鹿児島女子短期大学FD活動報告書」
(2016年度版)

鹿児島女子短期大学FD委員会
(2017年5月発行)